

2011年3月19日、JTJ 宣教神学校の「派遣式」があり(その年だけは、卒業式ではなく派遣式と呼ばれました)、その日私は、伝道師下村明矢として、主と皆さんの手によって、この世に送り出されました。東日本大震災の8日後ですから、福島第一原発は1号炉、2号炉、4号炉、3号炉と爆発を繰り返し、原発から北西40kmの飯館村で45マイクロシーベルト/hと通常測定値の900倍が観測され、外資は駐在員を引き上げ、国内でも東京脱出組が春休みを待たず移動を始めた時期です。が、そんな危機的報道にもかかわらず、私の卒業を祝うべく多くの友人が列席くださり、或る方は西日本からも駆けつけてくれました。これには涙が出るほど感動し、心底嬉しかった。そして友人とはこういうものかと改めて思いました。

自分がビジネスマンをやってきたからビジネスマンへの伝道をミッションとしている…という面も否定はしませんが、実はこの派遣式の時、心に誓ったのです。これからはこの人達に恩返しをしようって。ただその思いで声掛けをし、福音を語った3年間でした。1か月後の4月18日を皮切りに、回数にして3年で計36回、その後、会の名称は「いちげつ会」となりましたが、実は、当たり前のことながら、集会は、そして説教は聴く人があって初めて成立します。がんばって20回も来てくれた元同級生もいれば、また、回数は一度でも、多忙なお仕事や、あるいは遠方ゆえの大変難しい状況にありながらも、文字通り万難を排して参加して下さった友人の方々も多数おられます。この場をお借りして、心から感謝申し上げたく存じます。本当にありがとうございました。

ところで今回、「仕事を辞めてもう一度神学校に行きます。」と言うと、「神学校はもう卒業していたのじゃなかったっけ?」、あるいは「ビジネスマンとして仕事しながらの伝道にこそ、意味があるのに。」と、複数の方から同じような疑問やリアクションを頂きました。これに関して、お答えしてきたのは、言葉は違えど、内容はつまるところ一つでした。それは、月一回の説教では、届かない世界があり、そこに残りの人生をかけて入っていきたいということです。ビジネスが切り口でも、その人には、ビジネス以外の実生活、家族、親戚との関係など、もっと深いものを皆さん持っておられます。そこまで届きたい。そこでもともに笑い、ともに泣き、一緒に生きたい。そして、人生のどこかでイエスキリストの救いを受け取ってほしい。そのためには、やはり毎週メッセージをお伝えできる関係を築きたいという思いでした。

人生80年のこの時代、いまから4年勉強しても、健康であれば、そしてもちろんみ心であれば、まだ20年は現役で働けます。それに加えて、妻がこの新たなチャレンジに同意してくれたことが、今回の最大の要素でした。したがって、2人そろって聖契神学校に入学すべく現在準備中ですが、25年来のパートナーが、新たな助け手として、次の25年も伴走してくれるというのは、この上ない祝福と心から感謝しています。4年間しっかり勉強し、晴れて卒業の暁には、またみなさんと更により関係を築きたく存じます。今後とも、私たち二人のことを皆さんのお祈りに覚えていただければ幸甚です。

2014年3月3日

Your neighbor 下村明矢

